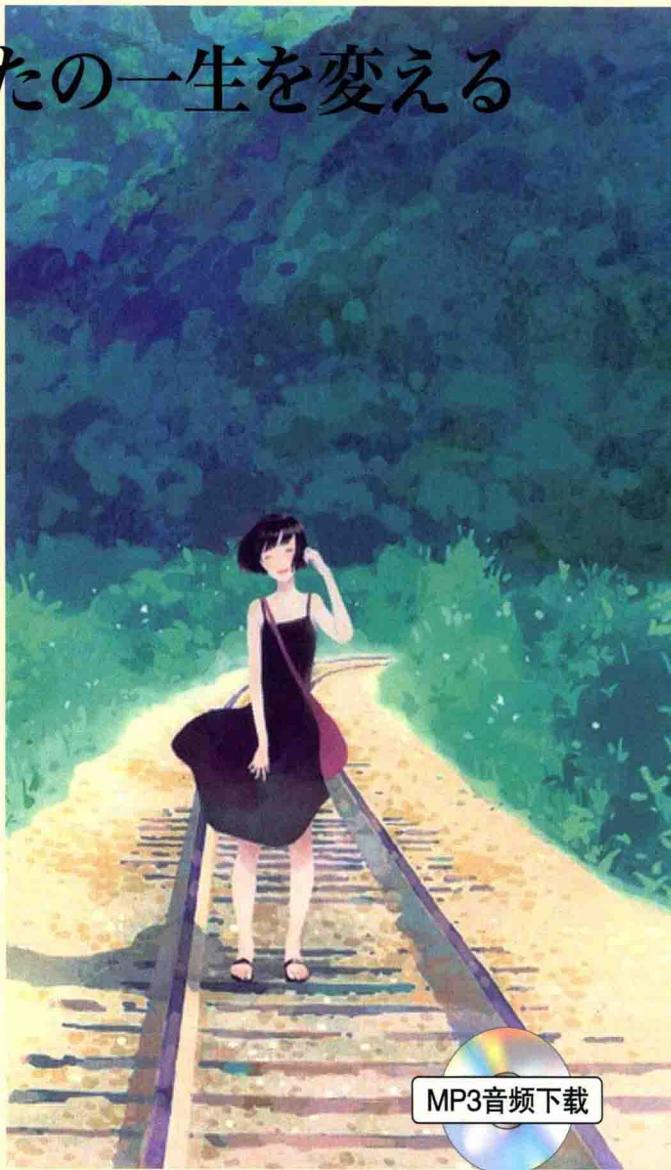


蔡晶纯 主编 / 王雪 副主编

あなたの一生を変える



MP3音频下载

我的小幸福， 仅此而已

每天读一点日文

一部温情治愈、温柔伤感的心灵物语，
精致温暖的插画、细腻清新的译文，
将种种美丽而不朽的深情向您娓娓道来。

至纯至美、至真至善的心灵经典佳作大全集

最美、最动人、最原汁原味的中日双语阅读精品

生活拾零、名家散文、动漫影视、经典名作、民间故事……

清新别致，字字珠玑，感悟生活，希望您能获得美和愉悦的阅读享受



中国宇航出版社

蔡晶纯 主编 / 王 雪 副主编



每天读一点日文
我的小幸福，
仅此而已



中国宇航出版社
·北京·

版权所有 侵权必究

图书在版编目 (C I P) 数据

每天读一点日文：日汉对译典藏版·我的小幸福，
仅此而已 / 蔡晶纯主编. -- 北京 : 中国宇航出版社,
2015. 4

ISBN 978-7-5159-0906-6

I. ①每… II. ①蔡… III. ①日语—汉语一对照读物
②文学—作品综合集—世界 IV. ①H369. 4: I

中国版本图书馆CIP数据核字(2015)第061602号

策划编辑 于慧 封面设计 文道思
责任编辑 刘东雪 责任校对 李琬琪

出版 中 国 宇 航 出 版 社

发 行 北京市阜成路 8 号 邮 编 100830
(010) 68768548

网 址 www.caphbook.com

经 销 新华书店

发行部 (010) 68371900 (010) 88530478 (传真)
(010) 68768541 (010) 68767294 (传真)

零售店 读者服务部 北京宇航文苑
(010) 68371105 (010) 62529336

承 印 三河市君旺印务有限公司

版 次 2015 年 4 月第 1 版 2015 年 4 月第 1 次印刷

规 格 787 × 960 开 本 1/16

印 张 20.5 字 数 283 千字

书 号 ISBN 978-7-5159-0906-6

定 价 38.80 元

本书如有印装质量问题, 可与发行部联系调换

一本好书，一篇美文，往往会让让人受益匪浅，犹如游历一般，使人开阔眼界、增长知识。尤其在阅读原版外国文学作品的时候，除了语言能力的提升，我们更能从中了解其风土人情乃至其思想方式和文化精髓。因此，为了满足广大日语学习者的阅读需求，我们特编写了“每天读一点日文”系列丛书，希望您能获得愉悦和美的阅读享受。

“每天读一点日文”是一套日汉对照丛书，目前已有《每天读一点日文：世界名人演讲精华集》《每天读一点日文：日本民间故事大全集》《每天读一点日文：我要的小幸福，仅此而已》《每天读一点日文：从曲折的旅途中走出最繁华的风景》四册，内容涵盖了经典美文、权威演讲、原汁原味的民间故事和富含哲理的名人语录等主题，涉及日本社会、文化、文学、风俗等多方面的知识，所选文章语言难度适当，篇幅适宜，题材多样，适合日语学习者每天阅读。文章朗朗上口，易于诵读；注释部分有助理解，难句解析攻克难关；加之地道标准的日语朗读音频文件，让您在学习日语的同时拓展文化视野，能够更加深入地了解日本。

本册《每天读一点日文：我要的小幸福，仅此而已》包括 10 章，分别为情感故事、生活拾零、名家散文、文化漫谈、动漫影视台词、世界名著日译、日本经典名作、中日文化对比、闲事旧物拾零、日本民间故事，所收篇目皆为脍炙人口的名篇佳作或文学作品。其中，每章均包含七八篇文章，每篇文章除了正文之外，还有“注释”“作品赏析”“日本事情”“作者简介”“豆知识”等小板块，力求寓日语学习于妙趣横生的小故事中，以提升读者的阅读兴趣，使读者无师自通，扩大知识面和词汇量，增强读解能力。全书采用中日文对照的形式，文

中的日语汉字全部标注假名，以方便读者阅读识记。参考译文部分可以帮助读者充分理解文章内容，有助于提高日语理解力和翻译水平。

本册书收录的 74 篇文章取材广泛，内容丰富。这里有温暖浓郁的亲情、感动常在的友情、热情洋溢的爱情，也有启迪人生的哲理、发人深省的智慧锦囊。此外，还有各种杂文、散文和随笔，清新别致，读来别有一番滋味。本书旨在向广大日语读者提供一本知识性与趣味性相结合的日语读物。我们相信，在阅读本书的轻松愉悦中，不但能够学习中日两国的语言知识，提高日语阅读理解能力与翻译水平，为日语的实际应用奠定坚实的基础，还可以领略一些人生感悟、成功者的智慧和名家大师们的文化沉淀，有助于开阔视野，加深对日本文化的了解。

本书第一、二、五、六、八、十等六章的内容由蔡晶纯执笔，三、四、七、九等四章的内容由王雪执笔。两位女性译者的翻译风格清新细腻，笔触柔和，将人情事理娓娓道来，能够触摸到人心最柔软的部分，希望能给读者带来独特的阅读体验。另外，中国宇航出版社的于慧编辑为本书的策划付出了巨大心血，年轻的刘东雪编辑对译文逐字推敲，作出了许多贡献。谨向二位表示谢忱。

本书选编了诸多日本名家的著作名篇，在此向诸位作者表示诚挚的谢意。由于一一取得联系尚有困难，出于保护原创著作权的考虑，均以选篇来源的形式将选编文章的出处列于书后。如若见，请联系我方出版社。

由于经验不足，水平有限，本书难免存有不足之处，恳请读者批评指正。

编者

2015 年 1 月

II

目录»

第一章 芬芳在流年岁月中 ——情感故事

● あわてんぼう	002
冒失鬼	003
● バス恋	006
巴士之恋	007
● 約束	010
约定	011
● 父親の愛	014
父爱	015
● 教師と生徒の恋愛	018
师生恋	019
● 訪れなかつた日曜日	022
没有到来的星期天	023
● もう一人のお母さん	026
另一位母亲	027
● 涙のお味噌汁	030
眼泪味噌	031

第二章 灯火阑珊回眸处，轻吟浅唱 ——生活拾零

● トランク	036
一只皮箱	037
● 赤い風船	040
一个红气球	041
● 買えない幸福	044
买不来的幸福	045
● 羨ましい言動	048
令人称道的言行	049
● 掛け替えのない友達	052
无可替代的朋友	053
● お礼の千円札	056
一千日元的感谢	057
● いびつなおにぎり	060
歪扭的饭团	061
● メロンカップの盃	064
蜜瓜酒杯	065

第三章 岁月走笔，往事般般应 ——名家散文

● 酒、そして焼酎	070
酒，烧酒	071

● 路地について	074
关于小巷子	075
● 旅立ちの不安	078
启程的不安	079
● 某月某日	082
某月某日	083
● 散歩の難しさ	086
散步的难处	087
● 生命の道	090
生命之道	091
● 危ない元気	094
危险的精力	095

第四章 秉烛夜话，谈笑无白丁 ——文化漫谈

● 愛読書の印象	100
爱读之书印象谈	101
● 本を読むこと	104
读书这件事	105
● ミロのヴィナス	108
米勒岛的维纳斯	109
● 文章と能率	112
写作与效率	113
● 小説のことなど	116
小说杂谈	117

● 重厚と軽薄	120
厚重与轻薄	121
● 作家の責任	124
作家的责任	125

第五章 记忆中的缤纷光影 ——动漫、影视台词

● 『イタズラなKiss』より	130
节选自《一吻定情》	131
● 『聖闘士星矢』より	134
节选自《圣斗士星矢》	135
● 『ラブレター』より	138
节选自《情书》	139
● 『半沢直樹』より	142
节选自《半泽直树》	143
● Legal high より	146
节选自Legal high	147
● 『秒速 5 センチメートル』より	150
节选自《秒速五厘米》	151
● 『最高の離婚』より	154
节选自《最完美离婚》	155

第六章 异境深处的时光逆旅 ——世界名著日译

● 若きウェルテルの悩み	160
少年维特的烦恼	161

● グレイト・ギャツビー.....	164
了不起的盖茨比.....	165
● 老人と海.....	168
老人与海.....	169
● ジェイン・エア.....	172
简·爱.....	173
● 誰だ、チーズを取ったのは?.....	176
谁动了我的奶酪.....	177
● 济南の冬.....	180
济南的冬天.....	181
● 後ろ姿.....	184
背影.....	185
● 小さな出来事.....	188
一件小事.....	189

第七章 草间花下的物语时光 ——日本经典名作

● 走れ! メロス.....	194
奔跑吧, 梅洛斯.....	195
● 金閣寺.....	198
金阁寺.....	199
● 雪国.....	202
雪国.....	203
● 生まれいづる悩み.....	206
出生的烦恼.....	207

● 河童	210
河童	211
● 刺青	214
刺青	215
● 風たちぬ	218
起风了	219

第八章 彼此眼中的风景 ——中日文化对比

● 中国の大きさ	224
中国之大	225
● 理解の難しさ	228
理解之难	229
● 中国人と時間	232
中国人和时间	233
● 初詣にわが身の無原則を思う	236
无宗教原则的新年参拜	237
● 梅と桜	240
梅花和樱花	241
● 「お風呂に入る」と「洗澡」	244
「お風呂に入る」和洗澡	245
● 美と「大」と「小」	248
美与大小	249

第九章 人间有味是清欢 ——闲事旧物杂谈

● お茶の楽しみ	254
饮茶的乐趣	255
● 藍の色	258
蓝	259
● 梅干と梅の里	262
梅干与梅子故里	263
● 傘の粹	266
和伞之粹	267
● 桜材の引出	270
樱花木抽屉	271
● 月下美人が咲く夜	274
昙花盛开之夜	275
● 着物のいのち	278
和服的寿命	279

第十章 岁月尽头的精神故乡 ——日本民间故事

● 花咲かじいさん	284
开花爷爷	285
● 浦島太郎	288
浦岛太郎	289

● 猿蟹合戦	292
猿蟹大战	293
● 三枚のお札	296
三张护身符	297
● 宝のどんぶり	300
宝碗	301
● 養老の滝	304
养老瀑布	305
● 桃の花酒	308
桃花酒	309
● 若返りの水	312
返老还童水	313

第一章 芬芳在流年岁月中 ——情感故事

あわてんぼう

かい もの かえ
買い物から帰つくると、やにわに^①電話の着

しんおん な ひび
信音が鳴り響いた。「あ、俺、俺だけどさ。」街の

けんそう はやくち みみ と こ
喧騒をBGM^②にした早口が耳に飛び込んできた。

たかゆき とうきょう ひとり く
貴之？！東京で一人暮らしをしている息子にいつ

なに わたし しんぞう こ どう いっ き はや
たい何があったのだろう？私の心臓の鼓動は一気に早くなつた。

たかゆき
「貴之？どうしたの？」

たいへん おれ じ こ お
「大変なんだ。俺、事故を起こしちやつて。」

じ こ じ こ け が
「事故？事故って、あんた、怪我したの？」

わたし あたま なか ま しろ
私の頭の中は、真っ白になつてしまつた。それでいて口だけはパクパク^③と

かつて うご なんど なんど むすこ しんたい いへん
勝手に動いて、何度も何度も息子に身体の異変がないかどうか問い合わせ続けた。

おれ だいじょうぶ あいて ひと くるま しゅうり だい ひやくまんえん きょうじゅう
「俺は大丈夫なんだけどね……相手の人は、車の修理代の百万円を今日中に

しほら じ だん い
支払ってくれたら示談にする^④って言ってくれてるんだ。だから、今すぐ相手

ひと こう ざ ひやくまんえん ふ こ たの
の人の口座に百万円振り込まなくちゃならないんだ。頼むよ…」

わたし ふる て ふ こ さき こう ざ ばんごう でん わ き
私は震える手で振り込み先の口座番号をメモした。電話を切ると、タンスの

ひ だ おく とら こ つうちょう いんかん だ つか よう ぶくろ なか お
引き出しの奥から虎の子^⑤の通帳と印鑑を出して、お使い用のずだ袋の中に押

こ げんかん で
し込むと、玄関を出た。

豆
知识

架空の事故などを装つて家族になりますとして電話をかける「振り込め詐欺」はその電話の特徴から「オレオレ振り込め詐欺」と呼ばれていた。2004年12月に警察庁によって統一名称として「振り込め詐欺」と定着した。/打电话谎称遭遇事故并冒充家人的“汇款欺诈”，因通话特点故此得名为“是是我汇款欺诈”。2004年12月，警察厅决定统一命名其为“汇款欺诈”。

冒失鬼

我买完东西刚一进家门，电话铃声突然响了起来。“啊，是我、是我呀！”耳边一下子传来语速很快的声音，同时夹杂着街头的嘈杂声。是贵之？！在东京一个人生活的儿子到底出了什么事？我的心跳一下子加速起来。

“贵之，怎么了？”

“不好了。我发生事故了。”

“事故？什么事故，你受伤了？”

我的大脑一片空白，只是任嘴巴一张一合地信口说着，反复地不停地问着儿子身体是否有异常。

“我不要紧……但对方跟我说，今天之内如果能支付一百万日元修车费的话就可以私了。所以，现在必须马上给对方的账户汇款一百万。拜托了……”

我双手哆嗦着记下了汇款的银行账号。一撂下电话，我马上从衣柜的抽屉里翻出了秘藏的存折和印章，然后塞进了日常使用的袋子里就出了家门。

注释

- ① 「やにわに」【副】突然，猛然，冷不防；立即，马上。
- ② 「BGM」(Back Ground Music)【名】背景音乐。
- ③ 「バクバク」【副・自サ】嘴巴一张一合的样子；大吃特吃；东西接缝处开口。
- ④ 「示談にする」【词组】和解。
- ⑤ 「虎の子」【名】珍藏；秘藏之物。

「それで、お前、百万円振り込んだのか？」帰宅して、夕方の一件を聞くと、主人は口をへの字に曲げて目を剥いた^⑥。聞くや否や主人は息子に電話をした。

「貴之は事故など起こしてはないようだよ。お母さん、やられたな。どうやら、今流行りの『オレオレ振り込め詐欺』に引っ掛けたようだよ。」

私は、ヘナヘナ^⑦とその場に座り込んでしまった。よかったです、貴之は無事だったのだ。騙された口惜しさと、息子が無事だった安堵感で、私の頭の中はごっちゃになっていて、何か言い忘れている大事なことがあるような気もしたが、思い出せなかった。

一週間ほど経ったある日、電話の着信音が鳴った。「もしもし、母さん、俺、貴之だけだ。」念のため、ディスプレーを確認すると「貴之・携帯」と出ている。どうやら今度は本物らしい。

「貴之、どうしたの？」

「それはこっちのセリフだよ。今日、銀行で給料おろして通帳見たら、先週母さんから百万円振り込まれていたんだけど、これ、もらっちゃっていいの？」

「百万円…」

ああそうだ、思い出した。詐欺犯の電話で慌てていた私は、口座番号をメモした紙を電話の横に置いたまま、家を飛び出してしまったのだ。そのことに銀行に着いてから気がついて、仕方なく財布の中に入れっぱなしになっていた息子の口座番号のメモを出して、息子の口座に直接お金を振り込んだのだった。だって、それがあの時、貴之にお金を届けることができる唯一の方法だった



から…